

活動報告書

2026 年 1 月～2026 年 2 月

トモシゴト Design & Code Lab.

1. 概要

2026 年 1～2 月は、前四半期（10～12 月）に整備した技術基盤・組織基盤が対外的な実証フェーズへと本格移行した時期である。ダイキン工業株式会社によるコードレビューおよびワークショップの実施、ならびに株式会社ロゴスコーポレーションとの営業支援 AI 共同開発が大きく進展した。また、能楽部向け業務支援システムは 2026 年 1 月 7 日に正式リリースを迎え、84 名の登録ユーザーを得て実際の部活動運営フローへの組み込みが完了した。

2. ダイキン工業株式会社との連携

2-1. コードレビューの実施と課題の明確化

2025 年度後半より継続してきたダイキン工業株式会社との技術連携について、本期間において具体的な成果が得られた。ダイキン工業の森鳩氏を窓口として、当プロジェクトが開発してきた能楽部向けシステムのコードベースを実際に確認いただいた。レビューの結果、以下の評価が得られた。

■ コードレビュー結果

良かった点
拡張性の高いアーキテクチャ設計
データベース部分がしっかり構成されている（スキーマ駆動開発）
指摘を受けた点（改善課題）
実務では使用されない実装パターンが一部存在する
単体テストが存在せず、開発時の品質担保が困難な状態

型定義の不足により、保守性・セキュリティ面に懸念が残る

設計レベルでは高い評価を受けた一方で、実装品質の面に改善余地があることが明確となった。特にテスト・型安全性・ログ出力は、AIを活用した開発が進む現代においても不可欠な品質担保の仕組みであり、本プロジェクトにとって直近の重点技術課題として認識した。以下に、評価されたアーキテクチャ構成を示す。



図1 DBレイヤー構成 (PostgreSQL + sqlc + Go Echo)

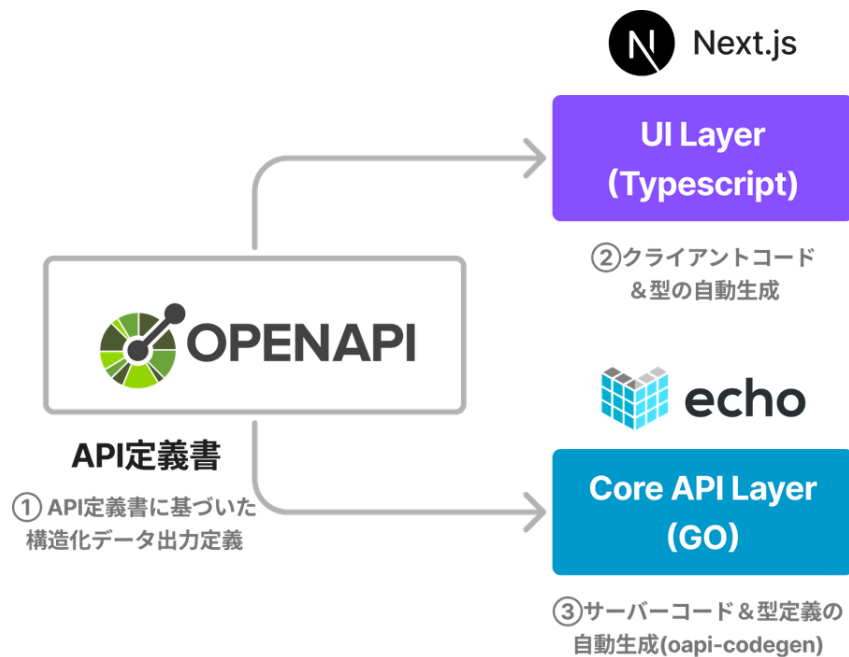


図2 OpenAPI を中心としたスキーマ駆動開発の構成

2-2. ワークショップへの参加（2月19日）

上記コードレビューの結果を踏まえ、ダイキン工業株式会社の社内開発者コミュニティ「D2Lounge」が主催するワークショップに招待を受け、当プロジェクトのメンバーが参加した。

ワークショップ概要

開催日時：2026 年 2 月 19 日（木）13:00～17:30

主催：ダイキン工業株式会社 D2Lounge（社内外の開発者コミュニティ）

会場：ダイキン工業株式会社（社内施設）



写真 1 ダイキン工業 D2Lounge ワークショップの様子

■ プログラム内容

- ・ 開発生産性向上ワークショップ（13:00～16:00）
 - ー ポーカーを題材としたテスト駆動開発（TDD）の実践形式。単体テストを導入することで開発効率がどう変わるかを体感することを目的とし、ダイキン工業の現役エンジニアと一対一でのペアプログラミングを実施
- ・ AWS Lambda PowerTools ワークショップ（16:00～17:30）
 - ー Pydantic と連携した型安全設計（Lambdalith へのリファクタリング）、ログ出力の実装などを体験。実際のバックエンドシステム開発に即した内容

■ 参加メンバーの感想

- ・ テストによる品質担保：「勘ではなく事実に基づいて品質を担保することの重要性を体感できた」
- ・ ログ出力・型安全性：「ログ出力や型安全な設計の考え方を学び、ハードコーディングの改善に着手した」
- ・ ロールモデルの獲得：「技術力のみならず、プロとしての姿勢そのものを学ぶ機会となった」

ダイキン工業側からは、今後も継続的にプロジェクトへ関与したいとの意向が示されており、グループチャット上でも活発なコミュニケーションが継続している。本連携は学生主体の開発水準をプロ品質へと引き上げるための実践的な教育機会として、プロジェクトにとって非常に意義深いものとなった。

3. 株式会社ロゴスコーポレーションとの連携

3-1. 連携の位置づけ

2025 年 12 月に開始したロゴスコーポレーションとの協議は、1～2 月にかけて具体的な開発フェーズへと移行した。本連携における当チームのスタンスは「言われたものを作る受託開発」ではなく、「共に現場の課題を発見・解決する戦略的パートナー」としての関与である。既存の営業ツールはプロセス管理の側面が強く、暗黙知が暗黙知のままになりやすいという現場課題に対し、営業マンの顧客理解そのものを助ける AI ツールの開発を進めている。

3-2. 営業支援 AI の共同開発

ロゴスコーポレーションの営業現場が抱える課題の解決を目的とした「営業支援 AI」の共同開発を進めている。以下のフェーズで進行中である。

- ・ フェーズ 1：仮説立案とプロトタイプ開発（完了）
 - － 仮説ベースで営業現場の課題解決を提案。プレゼンテーションを実施し、実際の現場課題との乖離を認識した上で設計を再調整
- ・ フェーズ 2：動作プロダクトによるフィードバック収集（完了）
 - － 実際に動作するプロダクトを構築し、ロゴスコーポレーションのメンバーに実際に触れてもらい、具体的かつ実務的なフィードバックを取得
- ・ フェーズ 3：ブラッシュアップ（進行中）
 - － 取得したフィードバックを反映しながら、現場が実際に必要とするプロダクトの形へと継続的に改善中

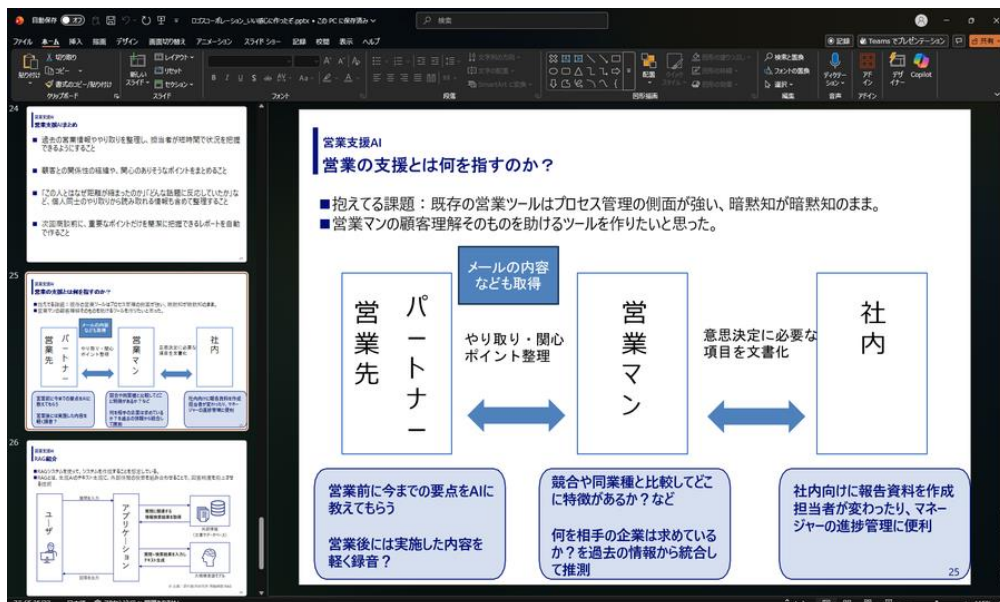


図3 ロゴスコーポレーション向け営業支援AIのコンセプト図（営業パートナー・営業マン・社内の情報流通を統合するAIシステム）

本取り組みは、仮説検証サイクルを高速に回しながら実課題に向き合う実践的な開発経験であり、受託開発とは質的に異なるコンサルティング型の問題解決スキルを養う場となっている。

4. 能楽部向けシステムの正式リリース

2026年1月7日、能楽部向けに開発していた業務支援システム（トモシゴト能システム）が正式にリリースされ、実際の部活動運営フローへの組み込みが完了した。

リリース時の主要指標
登録ユーザー数：84名（部員）
主要機能：出席管理・稽古スケジュール自動生成・情報共有
管理者側業務工数：約90%削減（週2回×2時間 → 数分程度）
運用状況：実際の部活動運営フローに完全統合済み



図4 練習予定管理画面（複数会場・時間スロット・数理最適化による自動生成）

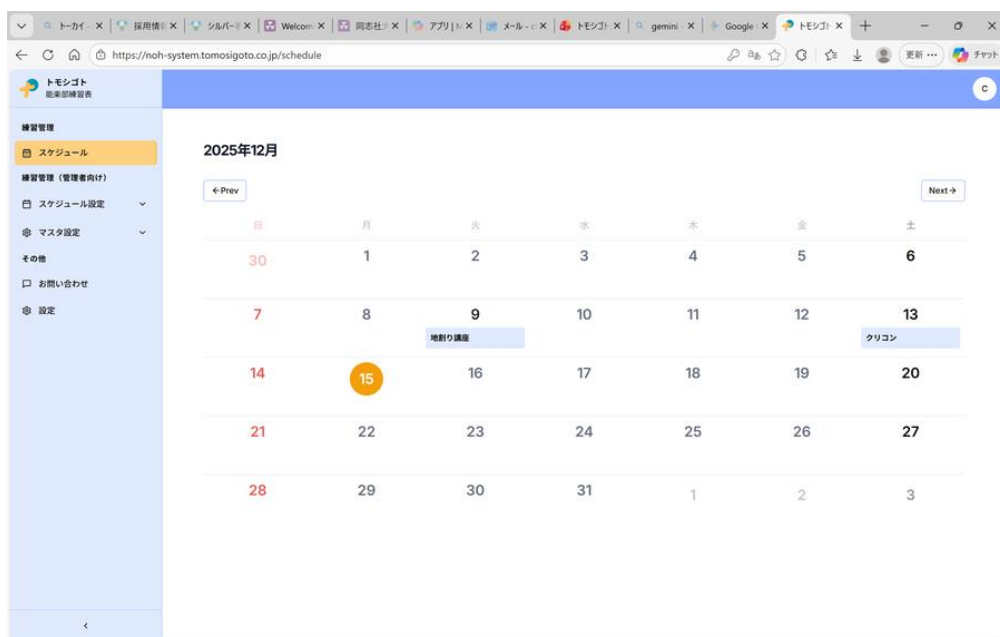


図5 スケジュールカレンダー画面（<https://noh-system.tomosigoto.co.jp/schedule>）

出席登録

出欠状況を選択してください

✓

出席

🕒

遅刻

✕

欠席

備考（任意）

出席を登録する

正規練習 2025年12月25日（木）

練習内容

練習内容が登録されていません

出欠情報詳細

🕒 遅刻 (1名)

【2回生】

ノワタリ ソウマ

図 6 出席登録画面（出席・遅刻・欠席の選択と備考入力）

本リリースは演習開発や試験運用の段階を超え、実利用環境における継続的な改善サイクルへの移行を意味する。学生主体で要件定義から設計・実装・運用までを一貫して担った事例として、今後の他団体・他学部組織への横展開可能性についても検討を進めていく予定である。

5. まとめと次期に向けた課題

2026 年 1～2 月は、以下の三点において大きな前進が得られた期間であった。

- ・ダイキン工業との連携によるプロ品質の開発基盤確立：テスト駆動開発・型安全性・ログ設計といった実務水準の開発手法を学び、学生開発のレベルアップにつながる重要な機会を得た。
- ・ロゴスコーポレーションとの営業支援 AI 開発の本格化：仮説検証型の開発プロセスを通じ、コンサルティング型の実課題解決スキルを積んでいる。
- ・能楽部システムの正式リリース：84 名が利用する実運用システムとして稼働を開始し、継続的な改善サイクルに入った。

次期に向けては、ダイキン工業ワークショップで得た知見（テスト・型定義・ログ設計）を既存コードベースへ実際に適用する改修作業、ならびにロゴスコーポレーションとの営業支援 AI の完成度向上を重点課題として取り組む。企業と学生チームが補完関係を成立させ、教育・実証・産業連携の三領域を同時に満たすモデルケースの構築を目指す。